

(社)日本原子力学会 標準委員会 研究炉専門部会  
第12回 放射線遮蔽分科会 (R2SC) 議事録

1. 日時 2003年4月9日 (水) 13:30~17:00

2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 平山 (主査), 三浦 (副主査), 山野 (幹事), 石川, 上松, 大石, 大塚, 小田野, 金野, 佐藤, 辻, 堂野前, 林, 播磨, 見上, (15名)

(代理出席委員) 大村 (森島委員代理) (1名)

(欠席委員) 清水 (1名)

(常時参加者) 坂本, 谷内 (2名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

R2SC12-1 標準委員会 専門部会運営通則 (抜粋)

R2SC12-2 第11回放射線遮蔽分科会(R2SC)議事録 (案)

R2SC12-3 標準委員会の活動概況

R2SC12-4 放射線遮蔽計算のための線量換算係数: 200 $\circ$  本体及び附属書

R2SC12-5 放射線遮蔽計算のための線量換算係数: 200 $\circ$  解説

R2SC12-6 遮蔽材料データの標準化に関する計画 (案) その4)コンクリート組成について

参考資料

R2SC12-参考1 日本原子力学会標準 制定スケジュール (案) (研究炉専門部会関係)

R2SC12-参考2 放射線遮蔽分科会委員一覧

R2SC12-参考3 役割分担

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 17名の委員中15名の委員と1名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数(11名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 役員選出

a. 主査の互選

事務局より, R2SC12-1により主査選任方法の説明の後, 出席委員全員による無記名投票が行われた。その結果, 平山委員が主査に選出された。(選任基準 9票以上; 17名の分科会委員総数の過半数以上)

投票結果; 平山委員 得票 16票

b. 副主査の指名

平山主査により, 三浦委員が副主査に指名された。

c. 幹事の指名

主査, 副主査の協議により, 山野委員が幹事に指名された。

(3) 人事について

事務局より坂本委員が3月末をもって委員を退任され, 常時参加者として登録を希望されている旨報告があり, 全会一致で承認された。

(4) 前回議事録の確認

事務局よりR2SC12-2により第11回分科会議事録の確認を行い承認された。

(5) 標準委員会等の活動状況について

事務局よりR2SC12-3により標準委員会等の活動状況報告があった。

(6) 線量換算係数標準の審議

坂本氏よりR2SC12-3,4に基づいて前回コメントを反映した放射線遮蔽計算のための線量換算係数案本体, 附属書及び解説の説明があった。以下のコメントを反映の後, 分科会委員の確認を受け, 次回第9回研究炉専門部会に報告することとなった。

- ・ 「多群模型の線量換算係数」は「群構造に対する線量換算係数」とする。
- ・ 4.2の「m次の」は削除する。
- ・ エネルギー単位はICRP Pub.74にあわせ, MeV単位とする。

- ・ 表4.4の表題は「高エネルギー遮へい計算用群構造に対する・・・」とする。
- ・ 解説p.13の数値はp.14の数値を使って計算しているので、出典の記載方法を注意する必要がある。
- ・ 引用はオリジナルの文献を原則とする。

#### (7) 分野別検討状況の確認

##### a. 遮蔽材料

上松委員よりR2SC12-6に基づいて遮蔽材料としてのコンクリート組成について説明があった。主な意見を以下に示す。

- ・ 熱的に厳しいところは蛇紋岩が使われている。
- ・ 遮蔽材料データとして標準をどう使ってもらうのか、対象によっても骨材が違ってくる。
- ・ 遮蔽の観点から比重や結合水によって何が変わってくるのか。

以上の議論を踏まえ、次回、金野委員から以下の観点で報告を受けることとなった。

- ・ これまでのコンクリート組成例の紹介。
- ・ 遮蔽材料としてのコンクリートについて、標準としてどの様なまとめ方をすれば、実務的なものができるか例示する。
- ・ コンクリートによる遮蔽に関する実務の紹介から、共通の認識を得る必要がある。

#### (8) 今後の予定

次回分科会は、線量換算係数の専門部会報告の状況から5月26日又は6月30日に開催することとなった。

以上